

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年8月5日

【四半期会計期間】 第79期第2四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

【会社名】 カゴメ株式会社

【英訳名】 KAGOME CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山口 聡

【本店の所在の場所】 名古屋市中区錦三丁目14番15号

【電話番号】 (052)951 - 3571

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 富森 芳信

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区錦三丁目14番15号

【電話番号】 (052)951 - 3571

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 富森 芳信

【縦覧に供する場所】 カゴメ株式会社 東京本社
(東京都中央区日本橋浜町三丁目21番1号(日本橋浜町Fタワー13階))
カゴメ株式会社 大阪支店
(大阪市淀川区宮原三丁目5番36号(新大阪トラストタワー15階))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第78期 第2四半期 連結累計期間	第79期 第2四半期 連結累計期間	第78期
会計期間		自 2021年1月1日 至 2021年6月30日	自 2022年1月1日 至 2022年6月30日	自 2021年1月1日 至 2021年12月31日
売上収益 (第2四半期連結会計期間)	(百万円)	91,926 (50,203)	95,790 (51,645)	189,652
営業利益	(百万円)	6,944	5,548	14,010
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	6,986	5,433	13,880
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間)	(百万円)	4,739 (3,384)	3,560 (2,068)	9,763
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	7,541	10,179	12,731
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	115,130	116,998	117,565
資産合計	(百万円)	204,900	213,908	215,208
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第2四半期連結会計期間)	(円)	53.05 (37.88)	40.75 (23.82)	109.37
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益	(円)	52.96	40.68	109.18
親会社所有者帰属持分比率	(%)	56.2	54.7	54.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	8,931	4,712	14,796
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,811	5,701	14,162
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	30,896	13,136	27,652
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	30,356	17,745	31,231

(注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況」「要約四半期連結財務諸表に関する注記事項」の5.セグメント情報をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、ウクライナ情勢に関して、当社グループは、ロシア、ウクライナの両国に事業拠点を有していませんが、世界的なエネルギー価格の上昇、金融市場への影響、サプライチェーンの混乱などが、当社グループの業績に影響を与える可能性がありますので、状況を注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当社は2022年12月期から4年間を対象とする中期経営計画のもと、「食を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業」を目指しております。基本戦略である「4つのアクション（野菜摂取に対する行動変容の促進 ファンベースドマーケティングへの変革 オーガニック・インオーガニック、両面での成長追求 グループ経営基盤の強化と挑戦する風土の醸成）の有機的連携による持続的成長の実現」に取り組み、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日）は、新型コロナウイルス感染症や、地政学リスクの高まりの影響により、資源価格の高騰、サプライチェーンの混乱、円安の進行など、事業を取り巻く環境が大きく変化しました。

このような環境の下、売上収益は、主に国際事業が円安や米国外食需要の回復などにより増収となりました。他方、価格改定を上回る原料価格の高騰や販売促進費の積極的投下により、事業利益（ ）は、国内事業、国際事業ともに減益となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の売上収益は、前年同期比4.2%増の957億90百万円、事業利益は前年同期比24.5%減の53億73百万円となりました。営業利益は、前年同期比20.1%減の55億48百万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期比24.9%減の35億60百万円となりました。

事業利益は、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除し、持分法による投資損益を加えた、経常的な事業の業績を測る利益指標です。

セグメント別の業績の概況は次の通りであります。

当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況」
「要約四半期連結財務諸表に関する注記事項」の5.セグメント情報をご参照ください。

なお、前第2四半期連結累計期間については、当該変更に基づき遡及して作成した数値となっております。

(単位：百万円)

セグメントの名称	売上収益			事業利益(は損失)		
	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減
飲料	37,189	36,503	686	4,044	3,235	809
通販	6,011	6,089	78	469	392	76
食品他	21,780	22,479	698	1,655	1,285	369
国内加工食品事業 計	64,981	65,072	90	6,169	4,913	1,255
国内農事業	4,989	4,992	2	100	204	103
国際事業	25,210	29,977	4,767	1,591	1,157	434
その他	1,086	1,091	5	1	38	36
調整額	4,341	5,344	1,003	745	863	117
合計	91,926	95,790	3,863	7,114	5,373	1,740

< 国内加工食品事業 >

国内加工食品事業では、飲料や調味料等の製造・販売を手掛けております。

当事業における売上収益は、前年同期比0.1%増の650億72百万円、事業利益は、前年同期比20.4%減の49億13百万円となりました。

[飲料：「野菜生活100」シリーズ、トマトジュース、野菜一日これ一本、他]

野菜飲料においては、日本における野菜摂取量を「あと60g増やす」ことを目指した『野菜をとろうキャンペーン』を推進し、積極的な販促活動を実施しました。「野菜生活100」シリーズは、前年の内食需要の反動があり、主にホームパックの需要が減少しました。なお、植物性ミルクの新ブランド「畑うまれのやさしいミルク」を2022年3月29日より全国で発売しております。

以上により、飲料カテゴリーの売上収益は、前年同期比1.8%減の365億3百万円、事業利益は、『野菜をとろうキャンペーン』や、植物性ミルクの新ブランド認知拡大を目的としたプロモーション費用の投下や、原材料価格の高騰により、前年同期比20.0%減の32億35百万円となりました。

[通販：野菜飲料、サプリメント、スープ等の通信販売]

通販カテゴリーでは、主に、野菜飲料、サプリメント、スープなどの製造・販売を行う通信販売「健康直送便」を手掛けております。

前年を上回る広告宣伝費を投下したことで定期顧客数は増加したものの、顧客単価が減少した結果、売上は前年同水準となりました。

その結果、通販カテゴリーの売上収益は、前年同期比1.3%増の60億89百万円となりました。事業利益は、広告宣伝費の増加により、前年同期比16.4%減の3億92百万円となりました。

[食品他：トマトケチャップ、トマト調味料、ソース、贈答品、他]

原材料であるトマトペースト価格の高騰などから、4月1日より家庭用、業務用の一部トマト調味料の出荷価格の改定を行いました。

食品カテゴリーは、内食需要に対応した「焼きケチャップ」などのメニュー情報発信と販促活動を強化しましたが、価格改定による一時的な需要の落ち込みにより、売上収益は減収となりました。

業務用カテゴリーは、外食需要の回復に価格改定による販売単価の上昇も相俟って、売上収益は増収となりました。

ギフト・特販カテゴリーは、受託製品の販売が減少したことで、売上収益は減収となりました。

以上により、食品他カテゴリーの売上収益は、前年同期比3.2%増の224億79百万円、事業利益は、原材料価格の高騰や、ケチャップの販売促進費の増加により、前年同期比22.3%減の12億85百万円となりました。

< 国内農事業 >

国内農事業では、主に生鮮トマト、ベビーリーフ等の生産・販売を手掛けております。

当第2四半期連結累計期間は、天候の影響により生鮮トマトの取扱量が減少したものの、生鮮トマト市況が前年を上回ったことにより、国内農事業の売上収益は、前年同期比0.1%増の49億92百万円、事業利益は、前年同期比102.6%増の2億4百万円となりました。

<国際事業>

国際事業では、種子開発から農業生産、商品開発、加工、販売事業を展開しております。

主な子会社における現地通貨建業績の概要は以下の通りです。

KAGOME INC.（米国）は、米国外食需要の回復により、新規顧客を含むフードサービス企業向け販売が好調に推移したこと、およびコスト上昇に伴う価格改定を実施したことにより増収となりましたが、原料価格や物流費などの継続的な高騰により、減益となりました。Holding da Industria Transformadora do Tomate, SGPS S.A.（ポルトガル）は、主力商品であるトマトペースト価格が上昇したことなどにより、増収増益となりましたが、エネルギー価格の急激な高騰などにより事業利益は微増となりました。Kagome Australia Pty Ltd.（豪州）は、豪州主要顧客向けの引取時期変更により減収となりました。また、当第1四半期連結累計期間に発生した品質不具合による一時的な損失などにより減益となりました。United Genetics Holdings LLC（米国）は、主にトルコリラ安によるトルコ子会社の為替影響および欧州子会社における種子販売の減少により、減収減益となりました。

以上により、国際事業における売上収益は、前年同期比18.9%増の299億77百万円、事業利益は、前年同期比27.3%減の11億57百万円となりました。

<その他事業>

その他事業には、不動産事業、業務受託事業、新規事業等が含まれております。

売上収益は、前年同期比0.5%増の10億91百万円、事業損失は38百万円（前年同期は事業損失1百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間は、資産合計につきましては、前期末に比べ13億円減少いたしました。

流動資産につきましては、前期末に比べ68億22百万円減少いたしました。

これは、主に「現金及び現金同等物」が、自己株式の取得や、配当金の支払いなどにより134億85百万円減少したものの、原材料価格の高騰に備えた在庫の積み増しなどにより「棚卸資産」が29億59百万円、主に円安によるデリバティブ資産の時価増加などにより「その他の金融資産」が14億28百万円、加えて「営業債権及びその他の債権」が12億30百万円、それぞれ増加したことによります。

非流動資産につきましては、前期末に比べ55億22百万円増加いたしました。

これは、主に円安によるデリバティブ資産の時価増加や、プラントベースフードのスタートアップ企業である株式会社TW0への出資などにより「その他の金融資産」が26億91百万円、当社の製造設備の更新などにより「有形固定資産」が25億97百万円、それぞれ増加したことによります。

負債につきましては、前期末に比べ12億33百万円減少いたしました。

これは、主に「営業債務及びその他の債務」が9億63百万円減少したことによります。

資本につきましては、前期末に比べ66百万円減少いたしました。内訳としては、円安の進行等により「その他の資本の構成要素」が59億67百万円、「親会社の所有者に帰属する四半期利益」により35億60百万円増加いたしました。一方で、自己株式の取得や処分により68億20百万円、剰余金の配当により32億77百万円、それぞれ減少しております。

この結果、親会社所有者帰属持分比率は54.7%、1株当たり親会社所有者帰属持分は1,355円16銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、177億45百万円となり、前連結会計年度末比で134億85百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況は次の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、47億12百万円の純収入（前年同期は89億31百万円の純収入）となりました。これは、主に税引前四半期利益が54億33百万円となったこと、減価償却費及び償却費が40億28百万円となったこと（以上、キャッシュの純収入）、法人所得税等の支払いにより17億60百万円支出したこと（以上、キャッシュの純支出）などによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、57億1百万円の純支出（前年同期は58億11百万円の純支出）となりました。これは、主に有形固定資産及び無形資産の取得（投資不動産含む）により54億27百万円支出したことによりま

す。

財務活動によるキャッシュ・フローは、131億36百万円の純支出（前年同期は308億96百万円の純支出）となりました。これは、主に自己株式の純増加により68億61百万円、配当金の支払いにより32億71百万円、それぞれ支出があったこと、加えて短期借入金の純減少が26億98百万円あったこと（以上、キャッシュの純支出）によります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の概要は以下のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの事業特性、並びに当社の企業価値の源泉を十分理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保し、向上させることができる者であることが必要と考えております。当社の株式について、特定の買付者による大量取得行為が行われる場合に、株主の皆さまが当社の株式を売却されるか否かは、最終的には株主の皆さまのご判断に委ねられるべきものと考えられますが、その前提として、株主の皆さまに適切かつ十分な情報をご提供したうえで、ご判断を頂くために適切かつ十分な期間と機会を確保することが重要と考えております。当社は、2021年開催の第77回定時株主総会終結のときをもって「当社株式の大量取得行為に関する対応方針（買収防衛策）」を継続しない旨を決定し現在に至っておりますが、当社株式の大量買付を行おうとする者に対しては、大量買付行為の是非を株主の皆さまが適切に判断するために必要かつ十分な情報の提供を求め、あわせて当社取締役会の意見等を開示し、株主の皆さまの検討のための時間と情報の確保に努める等、金融商品取引法、会社法及びその他関係法令に基づき、適切な措置を講じてまいります。

基本方針の実現に資する特別な取り組み

a. 企業価値向上への取り組み

当社は、長期ビジョンや2025年のありたい姿の達成に向け、中期経営計画を策定し、経営課題に取り組むことで企業価値の向上を図ってまいります。

b. コーポレート・ガバナンスの強化に向けた取り組み

当社では、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、体制の整備・運用を行うことで、経営の客観性、透明性を高め、高度なアカウンタビリティを実現し、真の「開かれた企業」を目指してまいります。

本取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

本取り組みは、前述のとおり、基本方針の実現のため、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保・向上させるために取り組むものであります。

このため、当社取締役会は、本取り組みが基本方針に沿い、株主の皆様共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、19億61百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	279,150,000
計	279,150,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年8月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	94,366,944	94,366,944	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミアム市場	単元株式数 100株
計	94,366,944	94,366,944		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	94,366,944	-	19,985	-	23,733

(5) 【大株主の状況】

2022年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する 所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	12,775	14.80
ダイナパック(株)	愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号	4,379	5.07
(株)日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1丁目8番12号	3,405	3.94
蟹江利親	愛知県東海市	1,412	1.64
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U.S.A. (東京都港区港南2丁目 15番1号 品川インターシティA棟)	1,079	1.25
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任 代理人 株式会社みずほ銀行決済営業 部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都 港区港南2丁目15番1号 品川インターシ ティA棟)	1,059	1.23
カゴメ取引先持株会	東京都中央区日本橋浜町3丁目21番1号	991	1.15
蟹江英吉	愛知県東海市	982	1.14
カゴメ社員持株会	愛知県名古屋市中区錦3丁目14番15号	935	1.08
佐野真一	愛知県東海市	836	0.96
計		27,857	32.26

(注) 1 上記のほか、自己株式7,874千株(8.34%)があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次の通りであります。

(株)日本カストディ銀行 3,405千株

日本マスタートラスト信託銀行(株) 12,775千株

なお、「日本マスタートラスト信託銀行(株)」が所有する12,775千株には「役員報酬BIP信託口」の信託財産として保有する156千株、「みらいやさい財団信託口」の信託財産として保有する940千株を含めております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,874,600		単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 86,386,400	863,864	同上
単元未満株式	普通株式 105,944		
発行済株式総数	94,366,944		
総株主の議決権		863,864	

- (注) 1 上記「完全議決権株式(自己株式等)」のほか、要約四半期連結財務諸表に自己株式として認識している「日本スタートラスト信託銀行(株)(役員報酬BIP信託口)」(以下、役員報酬BIP信託口)保有の当社株式が156,649株あります。
なお、当該株式数は上記「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄に含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) カゴメ株式会社	名古屋市中区錦三丁目14 番15号	7,874,600		7,874,600	8.34
計		7,874,600		7,874,600	8.34

- (注) 上記のほか、要約四半期連結財務諸表に自己株式として認識している役員報酬BIP信託口保有の当社株式が156,649株あります。
なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(以下、「IAS第34号」)に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年6月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表についてPwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等について連結財務諸表等に的確に反映する体制を構築するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

4. IFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備

当社は、国際会計基準審議会が公表するプレスリリースや基準書を随時入手し、最新の基準の把握を行っております。また、IFRSに準拠したグループ会計方針を作成し、IFRSに基づいて連結財務諸表等を適正に作成することができる体制の整備を行っております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2022年6月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	6	31,231	17,745
営業債権及びその他の債権		41,657	42,887
棚卸資産		47,150	50,110
未収法人所得税		189	276
その他の金融資産	12	1,257	2,686
その他の流動資産		1,999	2,957
流動資産合計		123,485	116,662
非流動資産			
有形固定資産	7	60,193	62,791
無形資産		3,351	3,418
その他の金融資産	12	15,212	17,904
持分法で会計処理されている投資		7,873	8,610
その他の非流動資産		3,141	3,518
繰延税金資産		1,950	1,001
非流動資産合計		91,723	97,245
資産合計		215,208	213,908
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		35,244	34,281
借入金		26,436	26,136
未払法人所得税		2,530	2,430
その他の金融負債	12	948	948
その他の流動負債		7,751	6,633
流動負債合計		72,911	70,430
非流動負債			
長期借入金	12	7,824	8,787
その他の金融負債		3,225	3,173
退職給付に係る負債		5,963	5,981
引当金		1,162	1,179
その他の非流動負債		1,122	1,125
繰延税金負債		3,456	3,755
非流動負債合計		22,754	24,002
負債合計		95,666	94,432

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2022年6月30日)
資本			
資本金		19,985	19,985
資本剰余金		22,799	22,803
自己株式		14,810	21,631
その他の資本の構成要素		5,355	11,323
利益剰余金		84,235	84,518
親会社の所有者に帰属する持分		117,565	116,998
非支配持分		1,977	2,476
資本合計		119,542	119,475
負債及び資本合計		215,208	213,908

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上収益	5,9	91,926	95,790
売上原価		58,162	62,161
売上総利益		33,764	33,628
販売費及び一般管理費	10	26,766	28,495
持分法による投資損益(は損失)		116	241
その他の収益		224	348
その他の費用		395	173
営業利益		6,944	5,548
金融収益		393	627
金融費用		351	743
税引前四半期利益		6,986	5,433
法人所得税費用		2,019	1,636
四半期利益		4,966	3,797
四半期利益の帰属			
親会社所有者		4,739	3,560
非支配持分		227	236
合計		4,966	3,797
親会社の所有者に帰属する			
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	11	53.05	40.75
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	11	52.96	40.68

売上総利益から事業利益への調整表

売上総利益		33,764	33,628
販売費及び一般管理費		26,766	28,495
持分法による投資損益(は損失)		116	241
事業利益(*)		7,114	5,373

(*) 事業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除し、持分法による投資損益を加えた利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の取締役会は事業利益に基づいて事業セグメントの業績を評価しており、当社の経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、要約四半期連結損益計算書及び注記「5.セグメント情報」に自主的に開示しております。

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上収益	50,203	51,645
売上原価	31,810	33,606
売上総利益	18,392	18,039
販売費及び一般管理費	13,585	15,013
持分法による投資損益(は損失)	124	164
その他の収益	127	253
その他の費用	152	120
営業利益	4,905	3,322
金融収益	127	389
金融費用	73	516
税引前四半期利益	4,959	3,195
法人所得税費用	1,422	938
四半期利益	3,536	2,256
四半期利益の帰属		
親会社所有者	3,384	2,068
非支配持分	152	188
合計	3,536	2,256
親会社の所有者に帰属する 1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	37.88	23.82
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	37.81	23.78

売上総利益から事業利益への調整表

売上総利益	18,392	18,039
販売費及び一般管理費	13,585	15,013
持分法による投資損益(は損失)	124	164
事業利益(*)	4,931	3,189

(*)事業利益は売上総利益から販売費及び一般管理費を控除し、持分法による投資損益を加えた利益であり、IFRSで定義されている指標ではありませんが、当社の取締役会は事業利益に基づいて事業セグメントの業績を評価しており、当社の経常的な事業業績を測る指標として有用な情報であると考えられるため、要約四半期連結損益計算書及び注記「5.セグメント情報」に自主的に開示しております。

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益	4,966	3,797
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振替えられることのない項目		
確定給付制度の再測定	-	1
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の純変動	331	55
持分法適用会社のその他の包括利益 持分	44	1
合計	286	55
純損益に振替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	972	3,710
ヘッジコスト	335	1,014
在外営業活動体の換算差額	1,335	4,114
持分法適用会社のその他の包括利益 持分	3	16
合計	2,646	6,826
その他の包括利益(税引後)合計	2,933	6,881
四半期包括利益(は損失)	7,899	10,679
四半期包括利益の帰属		
親会社所有者	7,541	10,179
非支配持分	358	499
合計	7,899	10,679

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期利益	3,536	2,256
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振替えられることのない項目		
確定給付制度の再測定	-	-
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の純変動	65	279
持分法適用会社のその他の包括利益持 分	-	-
合計	65	279
純損益に振替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	199	3,107
ヘッジコスト	89	1,560
在外営業活動体の換算差額	24	2,507
持分法適用会社のその他の包括利益 持分	0	10
合計	85	4,065
その他の包括利益(税引後)合計	150	4,345
四半期包括利益(は損失)	3,687	6,601
四半期包括利益の帰属		
親会社所有者	3,500	6,226
非支配持分	186	374
合計	3,687	6,601

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分									
		資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素						合計
					確定給付 制度の 再測定	その他の 包括利益 を通じて 公正価値 で測定 する 金融資産 の純変動	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	ヘッジ コスト	在外営業 活動体の 換算差額		
2021年1月1日残高		19,985	22,723	12,351	-	4,654	25	655	2,446	2,888	
四半期利益		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の包括利益		-	-	-	44	331	972	335	1,207	2,801	
四半期包括利益		-	-	-	44	331	972	335	1,207	2,801	
非金融資産等への振替		-	-	-	-	-	254	-	-	254	
自己株式の取得		-	-	1	-	-	-	-	-	-	
自己株式の処分		-	4	30	-	-	-	-	-	-	
剰余金の配当	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
株式報酬		-	53	-	-	-	-	-	-	-	
利益剰余金への振替		-	-	-	44	-	-	-	-	44	
その他の増減		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
所有者との取引額合計		-	57	28	44	-	-	-	-	44	
2021年6月30日残高		19,985	22,781	12,322	-	4,985	743	990	1,239	5,480	

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に 帰属する持分		非支配 持分	資本合計
		利益 剰余金	合計		
2021年1月1日残高		77,730	110,976	1,674	112,651
四半期利益		4,739	4,739	227	4,966
その他の包括利益		-	2,801	131	2,933
四半期包括利益		4,739	7,541	358	7,899
非金融資産等への振替		-	254	-	254
自己株式の取得		-	1	-	1
自己株式の処分		-	34	-	34
剰余金の配当	8	3,219	3,219	-	3,219
株式報酬		-	53	-	53
利益剰余金への振替		44	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額合計		3,263	3,133	-	3,133
2021年6月30日残高		79,206	115,130	2,033	117,164

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に帰属する持分									
		資本金	資本 剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素						合計
					確定給付 制度の 再測定	その他の 包括利益 を通じて 公正価値 で測定 する 金融資産 の純変動	キャッ シュ・ フロー・ ヘッジ	ヘッジ コスト	在外営業 活動体の 換算差額		
2022年1月1日残高		19,985	22,799	14,810	-	4,285	1,121	654	705	5,355	
四半期利益		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の包括利益		-	-	-	0	55	3,710	1,014	3,868	6,619	
四半期包括利益		-	-	-	0	55	3,710	1,014	3,868	6,619	
非金融資産等への振替		-	-	-	-	-	652	-	-	652	
自己株式の取得		-	2	6,859	-	-	-	-	-	-	
自己株式の処分		-	1	38	-	-	-	-	-	-	
剰余金の配当	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
株式報酬		-	8	-	-	-	-	-	-	-	
利益剰余金への振替		-	-	-	0	0	-	-	-	0	
その他の増減		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
所有者との取引額合計		-	4	6,820	0	0	-	-	-	0	
2022年6月30日残高		19,985	22,803	21,631	-	4,341	4,179	360	3,162	11,323	

(単位：百万円)

	注記	親会社の所有者に 帰属する持分		非支配 持分	資本合計
		利益 剰余金	合計		
2022年1月1日残高		84,235	117,565	1,977	119,542
四半期利益		3,560	3,560	236	3,797
その他の包括利益		-	6,619	262	6,881
四半期包括利益		3,560	10,179	499	10,679
非金融資産等への振替		-	652	-	652
自己株式の取得		-	6,861	-	6,861
自己株式の処分		-	36	-	36
剰余金の配当	8	3,277	3,277	-	3,277
株式報酬		-	8	-	8
利益剰余金への振替		0	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額合計		3,277	10,093	-	10,093
2022年6月30日残高		84,518	116,998	2,476	119,475

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
	6,986	5,433
税引前四半期利益		
減価償却費及び償却費	3,590	4,028
受取利息及び受取配当金	250	232
支払利息	209	147
持分法による投資損益(は益)	116	241
有形固定資産及び無形資産除売却損益 (は益)	212	119
営業債権及びその他の債権の増減額 (は増加)	1,395	64
棚卸資産の増減額(は増加)	2,926	182
営業債務及びその他の債務の増減額 (は減少)	211	843
その他	1,007	2,081
小計	11,368	6,337
利息及び配当金の受取額	235	291
利息の支払額	394	155
法人所得税等の支払額	2,278	1,760
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,931	4,712
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産及び無形資産の取得による 支出(投資不動産含む)	5,941	5,427
有形固定資産の売却による収入 (投資不動産含む)	128	196
関係会社株式及び出資金の取得による支 出	65	-
その他の金融資産の取得による支出	23	517
その他の金融資産の売却及び償還による 収入	85	45
その他	4	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,811	5,701
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	29,188	2,698
長期借入による収入	2,211	491
長期借入金の返済による支出	372	426
リース負債の返済による支出	332	369
配当金の支払額	3,213	3,271
自己株式の純増減額(は増加)	1	6,861
財務活動によるキャッシュ・フロー	30,896	13,136
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	27,777	14,125
現金及び現金同等物の期首残高	6 56,768	31,231
現金及び現金同等物に係る為替変動による 影響	1,365	639
現金及び現金同等物の四半期末残高	6 30,356	17,745

【要約四半期連結財務諸表に関する注記事項】

1. 報告企業

カゴメ株式会社（以下、「当社」）は、日本の会社法に基づく株式会社であり、本社は愛知県名古屋市に所在しております。当第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）の要約四半期連結財務諸表は、当社及びその子会社（以下、「当社グループ」）、並びに当社グループの関連会社に対する持分から構成されております。

当社グループは、国内において、飲料や調味料等の製造・販売を行っている国内加工食品事業、トマトを中心とした生鮮野菜の生産・販売を行っている国内農事業の2つを主たる事業としております。また、種子開発から農業生産、商品開発、加工、販売までの垂直統合型ビジネスを国際事業として展開しております。

したがって、当社グループは「国内加工食品事業」、「国内農事業」、「国際事業」及び「その他」の4つを報告セグメントとしております。その詳細については、注記「5. セグメント情報」に記載しております。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

(2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定されている金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

3. 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同様であります。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を用いて算定しております。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っております。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、その見積りを見直した連結会計年度と将来の連結会計年度において認識されます。

要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び仮定は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内において、飲料や調味料の製造・販売を行っている国内加工食品事業、トマトを中心とした生鮮野菜の生産・販売を行っている国内農事業の2つを主たる事業としております。また、種子開発から農業生産、商品開発、加工、販売までの垂直統合型ビジネスを国際事業として展開しております。なお、当社グループは製品、顧客等の要素及び経済的特徴の類似性を考慮し、飲料、通販及び食品他については事業セグメントを集約して「国内加工食品事業」を報告セグメントとしております。

したがって、当社グループは「国内加工食品事業」、「国内農事業」、「国際事業」及び「その他」の4つを報告セグメントとしております。また、セグメント利益は、「事業利益()」であり、取締役会は事業利益に基づいて事業セグメントの業績を評価しております。

「事業利益」は、「売上収益」から「売上原価」、「販売費及び一般管理費」を控除し、「持分法による投資損益」を加えた、経常的な事業の業績を測る利益指標です。

各報告セグメントの主要な製品は、以下の通りであります。

セグメントの名称	主要製品及び商品等
飲料	野菜生活100シリーズ、トマトジュース、野菜一日これ一本、他
通販	野菜飲料、サプリメント、スープ、他
食品他	トマトケチャップ、トマト調味料、ソース、贈答品、他
国内加工食品事業	
国内農事業	生鮮トマト、ベビーリーフ等
国際事業	種子開発・農業生産、商品開発、加工、販売
その他	不動産事業、業務受託事業、新規事業、他

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

2022年12月期から4年間を対象とする中期経営計画の開始にあたる第1四半期連結累計期間より、各セグメントをより実態に即した費用負担で管理するために、国内事業の「加工食品」セグメントに含まれていた本社費用の一部を以下の通り変更しております。

グループ本社機能に要する費用を連結共通費用として「調整額」に含める
国際事業など他セグメントに直接関わる費用を該当セグメントの費用とする

上記の他、国内から海外への輸出版売取引について、「国際事業」から「その他」に移管しております。

また、報告セグメントの区分及び名称を、国内事業の「加工食品」、「農」、「その他」及び「国際事業」から、「国内加工食品事業」、「国内農事業」、「国際事業」、「その他」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間については、当該変更に基づき遡及して作成した数値となっております。

(3) 報告セグメントの売上収益及び業績

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	要約四半期 連結財務諸 表計上額
	国内 加工食品事業	国内農事業	国際事業	その他		
売上収益						
外部顧客に対する 売上収益	64,981	4,987	20,970	986	-	91,926
セグメント間の内部 売上収益及び振替高	-	2	4,239	99	4,341	-
売上収益合計	64,981	4,989	25,210	1,086	4,341	91,926
事業利益(は損失)	6,169	100	1,591	1	745	7,114
その他の収益						224
その他の費用						395
営業利益						6,944
金融収益						393
金融費用						351
税引前四半期利益						6,986

(注)事業利益の調整額には、事業セグメントに配分していないグループ本社機能に関する連結共通費用が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	要約四半期 連結財務諸 表計上額
	国内 加工食品事業	国内農事業	国際事業	その他		
売上収益						
外部顧客に対する 売上収益	65,072	4,990	24,730	996	-	95,790
セグメント間の内部 売上収益及び振替高	-	2	5,247	94	5,344	-
売上収益合計	65,072	4,992	29,977	1,091	5,344	95,790
事業利益(は損失)	4,913	204	1,157	38	863	5,373
その他の収益						348
その他の費用						173
営業利益						5,548
金融収益						627
金融費用						743
税引前四半期利益						5,433

(注) 事業利益の調整額には、事業セグメントに配分していないグループ本社機能に関する連結共通費用が含まれております。

6. 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物の内訳は、以下の通りであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2022年6月30日)
手許現金及び要求払い預金	31,231	17,745
合計	31,231	17,745

要約四半期連結財政状態計算書における現金及び現金同等物の残高と、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金同等物の残高は、一致しております。

7. 有形固定資産及びコミットメント

有形固定資産の取得及び、売却又は処分の金額は、前第2四半期連結累計期間においてそれぞれ6,778百万円、254百万円、当第2四半期連結累計期間においてそれぞれ3,638百万円、77百万円であります。

有形固定資産の取得に関するコミットメントについては、前連結会計年度末、当第2四半期連結会計期間末においてそれぞれ、3,108百万円、3,589百万円であります。

8. 配当金

配当金の支払額は以下の通りであります。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

決議日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年2月17日 取締役会	3,219	36.00	2020年12月31日	2021年3月5日

(注) 2021年2月17日取締役会による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

決議日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年2月16日 取締役会	3,277	37.00	2021年12月31日	2022年3月9日

(注) 2022年2月16日取締役会による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

9. 売上収益

当社グループの売上収益は、主として一時点で顧客に支配が移転される財から生じる収益で構成されております。当社の報告セグメントにおける売上収益を加工食品の種類ごとに以下の通り分解しております。

第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況」「要約四半期連結財務諸表に関する注記事項」の5.セグメント情報をご参照ください。

なお、前第2四半期連結累計期間については、当該変更に基づき遡及して作成した数値となっております。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

(単位：百万円)

	国内加工食品事業			国内 農事業	国際事業	その他	調整額	合計
	飲料	通販	食品他					
顧客との契約から認識した収益	37,189	6,011	21,780	4,987	20,970	678	-	91,618
その他の源泉から認識した収益	-	-	-	-	-	308	-	308
売上収益合計	37,189	6,011	21,780	4,987	20,970	986	-	91,926

(注) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号「リース」に基づくリース収益が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位：百万円)

	国内加工食品事業			国内 農事業	国際事業	その他	調整額	合計
	飲料	通販	食品他					
顧客との契約から認識した収益	36,503	6,089	22,479	4,990	24,730	697	-	95,490
その他の源泉から認識した収益	-	-	-	-	-	299	-	299
売上収益合計	36,503	6,089	22,479	4,990	24,730	996	-	95,790

(注) その他の源泉から認識した収益には、IFRS第16号「リース」に基づくリース収益が含まれております。

10. 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費の内訳は以下の通りであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
人件費	8,892	8,806
販売促進費	2,306	2,836
広告宣伝費	3,914	3,831
運賃・保管料	6,524	7,301
減価償却費及び償却費	928	954
その他	4,199	4,766
合計	26,766	28,495

11. 1 株当たり利益

(1) 基本的 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1月 1日 至 2021年 6月 30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月 30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	4,739	3,560
親会社の普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
基本的 1 株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	4,739	3,560
加重平均普通株式数(千株)	89,340	87,374
基本的 1 株当たり四半期利益(円)	53.05	40.75

(2) 希薄化後 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1月 1日 至 2021年 6月 30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月 30日)
基本的 1 株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	4,739	3,560
四半期利益調整額(百万円)	-	-
希薄化後 1 株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	4,739	3,560
加重平均普通株式数(千株)	89,340	87,374
普通株式増加数 新株予約権(千株)	154	145
希薄化後の加重平均普通株式数(千株)	89,494	87,519
希薄化後 1 株当たり四半期利益(円)	52.96	40.68
希薄化効果を有しないため、希薄化後 1 株当たり 四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

12. 金融商品

(1) 金融商品の公正価値

公正価値ヒエラルキーのレベル別分類

公正価値で測定される金融商品について、測定に用いた評価技法へのインプットの観察可能性に応じて算定した公正価値を以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1・・・同一の資産又は負債に関する活発な市場における公表市場価格により測定した公正価値

レベル2・・・レベル1以外の、資産又は負債について、直接又は間接的に観察可能なインプットにより測定した公正価値

レベル3・・・資産又は負債についての観察可能な市場データに基づかないインプットにより測定した公正価値

公正価値で測定される金融商品

公正価値で測定される主な金融商品の測定方法は以下の通りであります。

() デリバティブ資産及びデリバティブ負債

デリバティブ資産及びデリバティブ負債はそれぞれその他の金融資産及びその他の金融負債に含まれております。これらは為替予約、金利通貨スワップであり、主に外国為替相場や金利等の観察可能なインプットを用いたモデルに基づき測定しております。

() 株式等

株式等はその他の金融資産に含まれております。株式については、レベル1に区分されているものは活発な市場で取引されている上場株式であり、取引所の市場価格によって評価しております。レベル3に区分されているものは非上場株式及び出資金であり、純資産に基づく評価モデル又はその他の適切な評価技法を用いて測定しております。

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下の通りであります。公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、各報告日において認識しております。なお、前連結会計年度及び当第2四半期連結会計期間において、レベル1、2及び3の間の振替はありません。

前連結会計年度(2021年12月31日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
デリバティブ資産		2,884		2,884
株式等	9,158		2,362	11,520
合計	9,158	2,884	2,362	14,405
金融負債				
デリバティブ負債		31		31
合計		31		31

当第2四半期連結会計期間(2022年6月30日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産				
デリバティブ資産		6,248		6,248
株式等	9,116		3,021	12,138
合計	9,116	6,248	3,021	18,387
金融負債				
デリバティブ負債		21		21
合計		21		21

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間に、レベル3に分類された金融商品の重要な変動はありません。

償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される主な金融商品に係る公正価値の測定方法は以下の通りであります。なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品及び重要性の乏しい金融商品は、下表に含めておりません。

()現金及び現金同等物(公正価値で測定される短期投資を除く)、営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務、借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、帳簿価額が公正価値と近似しております。

()長期借入金

レベル2に分類される長期借入金の公正価値は、残存期間における元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

償却原価で測定される主な金融商品の帳簿価額と公正価値は以下の通りであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融負債				
長期借入金	7,824	7,824	8,787	8,787
合計	7,824	7,824	8,787	8,787

13. 後発事象

該当事項はありません。

14. 要約四半期連結財務諸表の承認

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、2022年8月5日に、取締役会により承認されております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 8月 5日

カゴメ株式会社
取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤 真美
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	谷口 寿洋

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカゴメ株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、カゴメ株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企

業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。